

ガーデナップコンサバトリー
メンテナンス資料

開閉サッシの不具合

開閉サッシの開け閉めが硬い。または緩すぎて開けた状態を保つことが出来ない。 → P.1

開閉サッシ底辺の金具が枠側の金具にあたり、把手を倒せない（ロックできない）。 → P.2

サッシ底辺の金具側面が受け金具に干渉してサッシ把手を倒す際、硬くて倒しづらい。 → P.3

サッシ把手が硬くて倒せない。引っ掛かりがある。 → P.4

扉の不具合

扉を閉める際に、下部がフレームにあたる。鍵が抜けず施錠できない。 → P.5

開閉サッシの調整方法①

状 況

開閉サッシの開け閉めが硬い。または緩すぎて開けた状態を保つことが出来ない。



開閉サッシを最大まで開けて、枠側（左右）にある調整ネジをマイナスドライバー（小）で調整する。



開閉サッシの調整方法②

状 況

開閉サッシ底辺の金具が枠側の金具にあたり、把手を倒せない（ロックできない）。

※開閉サッシの位置が下がったか、アームの取り付け位置がずれている可能性が高い。



開閉サッシ底辺の金具と枠側の溝金具のあたり具合を確認し、開閉サッシを何ミリ上げればよいかを確認する。
(大抵 2～3 mm 程度)



開閉サッシを開けた状態で、1名が開閉サッシを持ち支え、もう1名が開閉サッシ側のビスを①、②の順にはずす。



③のビスをゆるめ、開閉サッシを上若干ずらし、ビスをとめなおす。(③の箇所のみ)

※サッシ位置を上げすぎると金具が入らないので注意。

②を前のビス穴の位置に仮止めし、反対側も同様の手順で行う。

開閉及びロックが可能かテストし、問題がなければ①と②のビスを新たな穴で本締めする。

※木ビスなので、締めすぎるとビスが効かなくなるので注意。



※サッシ把手の稼動が硬い状態で、無理矢理稼動させていると、把手の一部が削れ、把手を倒せなくなります。
上記メンテナンスを終えても把手の稼動が硬い場合は、「把手メンテナンス」(P.4)をご参照ください。

開閉サッシの調整方法③

状 況

サッシ把手を倒す際、硬くて倒しづらい。



サッシ底辺の金具側面が受け金具に干渉している可能性が高いので、擦れがないか確認する。
擦れた跡があれば、サッシ底辺の金具を六角レンチで90°回転させる。



擦れがないか確認



六角レンチで干渉しない位置まで回す (90°)

※サッシ把手の稼動が硬い状態で、無理矢理稼動させていると、把手の一部が削れ、把手を倒せなくなります。
上記メンテナンスを終えても把手の稼動が硬い場合は、「把手メンテナンス」(P.4)をご参照ください。

サッシ把手のメンテナンス方法

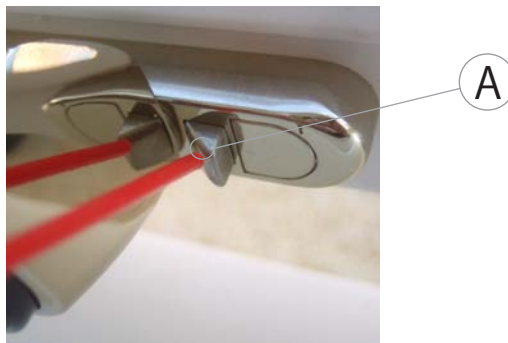
状況

サッシ把手が硬くて倒せない。引っ掛かりがある。



稼動が硬くなった把手を無理やり倒していると、A部分が削れ把手を倒せなくなるので、A部分を滑らかになるまでヤスリで削る。

※P2,3の問題がクリアされていることが前提の作業になります。



把手がスムーズに稼動できるようになれば完了。

扉垂れのメンテナンス方法

状況

扉を閉める際に、下部がフレームにあたる。鍵が抜けず施錠できない。



樹脂フレームに重い2重ガラスを入れるので、垂れが起こる可能性は高い。鍵が抜けず施錠できないケースも垂れによりロックが最後まで下りずに起こるケースが多い。

上記の場合は扉ヒンジの調整で補修する。

旧ヒンジ



新ヒンジ



ヒンジキャップを外す



六角レンチで調整

